

かみなり ぼうや



え ますいきよし

まいにち
まいにち
あつい ひが つづいて
たんぽや
いけは
からっから



みんなの
のども
からっから

みずが
ほしいなあ

あめ ふって
ほしいなあ

あまぐもが
どんどん
ひろがって
とおくで
かみなりが
なりだした



あたりが
くらくなって
いまにも
あめが
ふりそう

でも
あめは
ふって きません

どうしたのかなあ

くもの　うえでは
おとうさんかみなりが
びょうきで
ねていたのです

かわりに
かみなりぼうやが
たいこを
たたいて　います

コロ　コロ　トン　トン
コロ　コロ　トン　トン



かわいい　おとでは
いくら　たたいても
あめは
ふりません

もう
やーめた

おかあさんかみなりが
したを
みてごらん と
いいました
くもの
あいだから
のぞくと
みんなは ぐったり
あめが ほしいと
くるしそうな こえも
きこえます



ようし
おとうさんのように
がんばるぞ

ゴロ ゴロ
ドン ドン
ゴロ ゴロ
ドン ドン

いま
たいこを
たたいたのは
だれだ

おとうさん
ぼうやが
あめを
ふらせましたよ



ゴロッ
ピカッ
ザーッ
ザザー

きょうの
あめは
とっても
げんき

みんなは
おおよろこび

あなたの
おうちにも
かみなりぼうやの
あめが ふりますよ



この作品は、「みんななかま」（1—6集）の中から抜粋して、親が子に話を聞かせ、互いに話し合う中で、幼児の人間形成をより確かなものにしていただくため、一冊の絵本にまとめ「おやことくほん、みんななかま」として昭和53年から昭和62年まで各家庭に配布したものです。

かわいいちびっこのかみなりぼうやが、病気の父のかわりに力いっぱいがんばって、地上のすべての生きもののために、望みの雨を降らせるお話は、かみなりを擬人化して空想した私たち大人の郷愁とともに、現代っ子にも通じる豊かな夢を与えてくれるものと思います。同時に病気の父にかわって、子どもなりに精いっぱいやり通すことで、すべてのいのちの根源である雨を降らせることに成功した喜びを共感させるとともに、多くの生きものの願いに応えたことの深い満足感を感じとらせていただきたいと思います。